

アーサー・カプラン教授は、国際的に非常に名高い現代の生命倫理学の第一人者です。近著として *The Ethics of Sport* (Oxford University Press, 2016)、*Vaccination Ethics and Policy* (MIT Press, 2017) を挙げるすることができます。これまで公刊した 35 編の書籍、700 本以上の論文には生命倫理学に関する様々なトピックスが含まれますが、とりわけ、臓器移植や臓器売買、インフォームド・コンセントと患者および医学研究参加者の権利保護、公衆衛生政策、そして近年ではスポーツ倫理について鋭い議論を提示しています。また、カプラン教授はアメリカ国内の公的機関および国連など国際機関において有識者として数多くの場で発言をしております。

今回の研究集会の題材は、臓器移植の倫理です。臓器移植には、移植によってしか生命を維持できないような患者に対する移植と、移植は選択肢の一つにすぎず、他に代替的な手段のあるなかで実施される移植とに大別することができます。今回、焦点を絞るのは後者です。人工透析を行っている患者への腎移植が典型ですが、後者の移植は、生活の質 (quality of life) の改善を目的とした移植です。こうした生活の質の改善を目的とした移植の中に、将来的には、手、顔、子宮等の移植も入ってくるかもしれません。さて、生活の質の改善を目的とした移植は、倫理的にどのような論点が考慮されるべきでしょうか。研究集会では、生活の質の改善を目的とした移植が人間や社会に及ぼす影響について、特に「生活の量 (quantity of life) と生活の質のトレードオフ」に光を当てて論じていただきます。

# Prof. Arthur L. Caplan (New York University)

## 臓器移植の倫理における 静かな革命

Arthur L. Caplan, PhD  
the Drs. William F. and Virginia Connolly  
Mitty Professor and founding head of the  
Division of Bioethics at New York University  
Langone Medical Center in New York City.



日時: 2018年12月12日(水)  
17:30~18:30

会場: 東京大学 本郷キャンパス  
医学部教育研究棟 13階  
第5セミナー室

- 事前予約不要
- 参加無料
- 使用言語: 英語

演題と同タイトルのカプラン教授の *Journal of Medical Ethics* 誌翻訳論文が東京大学医療倫理学分野の CBEL Report ([http://cbel.jp/?page\\_id=1632](http://cbel.jp/?page_id=1632)) にありますので事前にご覧の上ご参加下さい。

主催: 東京医学会  
共催: 東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野  
後援: 日本生命倫理学会 国際交流委員会